

## 第64回大会 日本体育学会に参加して

### 2013 : Participated in the 64<sup>th</sup> annual Japan society of Physical Education, Health and Sport Science

佐藤 隆太

Ryuta SATO

#### 日本体育学会の概要

日本体育学会は、1950年に東京大学で第一回の学会大会が開催された。その後、国民体育大会と同様に毎年場所を変え、全国各地で行われている。体育・スポーツに関する科学研究や関心を高めること、学際的な交流を促進すること、体育・スポーツ科学を発展させること、研究で得ら

れた知見を実践の場に応用することを通して、學術の発展に寄与することを目的として行われている。

今年の第64回大会日本体育学会は、「未来に生きる 体育・スポーツ・健康」をテーマに、8月28～30日の3日間にかけて、滋賀県の立命館大学びわこくさつキャンパスにて開催された。3日間の大会内容は、主にシンポジウムや一般発表で



ポスター発表



ポスター発表



質疑応答の様子

あった。一般発表は14分野に分かれ、口頭発表とポスター発表の2種類が行われていた。国士館大学では、多くの教授の方々が座長や発表を行っていた。また、博士課程から修士課程まで、多くの大学院生も参加していた。

### 研究室内の参加

研究室内の参加として、須藤明治教授が「成長期における競泳選手の泳記録と筋量の3カ年に及ぶ経年的変化」について、博士課程3年の山田健二さんが「足把持筋力に及ぼす姿勢の影響」についてポスター発表を行った。他の研究者や専門家に臆することなく質疑応答を繰り返している姿を見て、頼もしさを改めて感じた。また、私が昨年経験した口頭発表では、質疑応答が短いことや緊張などもあり、落ち着いた状態で助言頂けないことを思い出した。それに比べ、ポスター発表では落ち着いた状態で質疑応答が行えることからポスター発表の良さを感じる事が出来た。今回の大会で発表は行うことができなかったが、修士課程2年の佐藤隆太、渡邊和久、石田洋平、修士課程1年の日向裕介も参加し、数多くの研究や自分の専門的な研究に触れる事が出来た。

### 日本体育学会の参加を通して

今回、日本体育学会に参加して、学会という場が貴重な場であるということを改めて感じた。学会では、高度で専門的な知識を持った方々が様々な観点から発表や質疑応答を行い、研究について互いに高め合っていた。自分の専門とする領域や体育・スポーツに関する様々な研究の発表を聞くことで、自分では気が付かない物事の見方・考え方・発想などを知る事ができた。これらの経験は、研究の意欲を高める契機となり、より一層研究に取り組む気持ちが強くなった。このモチベーションを維持しながら修士論文の作成に取り組んでいきたい。



須藤研究室